

## 第1回「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」検討委員会 会議録要旨

### 【会議日時及び場所】

日 時 2018年8月20日(月) 15:00~17:15

場 所 町田市役所 2階 2-5 会議室

### 【出席者】(敬称略)

#### ■委員

関司 直也(委員長)、柳沢 厚(副委員長)、若林 幸三、熊谷 正廣、田中 英夫、大谷 直勝、中丸 康明、山崎 凱史、岸 由二、福原 斉、間仁田 修

#### ■事務局

萩原北部・農政担当部長、石井農業振興課北部・里山担当課長、中川担当係長、井上主任、浅場主事

#### ■オブザーバー

井上農業振興課長、萩原担当係長

#### ■傍聴者

2人

### 【資料】

#### 次第

(資料1) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン検討委員会設置要綱

(資料2) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン検討委員会委員名簿

(資料3) 2017年度第2回検討委員会での主な意見及び対応について

(資料4) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン進捗確認シート

(資料5) 小野路・小山田ワークショップ実施報告書

### 【議事要旨】

- ・事務局より本日以降の検討委員会の開催趣旨、北部丘陵地域での事業の進捗状況等を説明した。
- ・委員より質疑応答を受け、意見交換を行った。

### 【会議内容】

#### 1 開会あいさつ

経済観光部北部・農政担当部長より挨拶

#### 2 新委員の紹介

- ・新委員の紹介及び出席委員全員が自己紹介

#### 3 議事

(説明)

- ・2017年度第2回検討委員会での主な意見及び対応について(資料3)の主な事項を事務局から説明

(説明)

- ・「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」の進捗状況について、(資料4)に基づいて事務局から説明

#### 4 その他

(意見交換)

- ・「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」の進捗について各委員から意見

#### 5 閉会

#### ■意見等

【北部丘陵地域で予定されている道路整備事業等の進捗について】

(委員)

- ・小田急多摩線延伸、多摩都市モノレール、都市計画道路等大きな計画の進捗を教えて欲しい。

(事務局)

- ・北部丘陵の地域では、都市計画道路、ごみ資源化施設、多摩都市モノレールの乗り入れ、小田急多摩線の延伸等がある。ごみ資源化施設については、2027年度の完成に変更となった。市道忠生579号線の整備についても、2027年度に変更になると伺っている。市道忠生630号線の整備は、2019年度から2021年度に変更となり、多摩都市モノレールについては、ルートを都と検討している状況である。

(委員)

- ・多摩都市モノレールの完成時期は、2032年度と市長が本会議で話していた。事務局が知らないのは問題ではないか。

(事務局)

- ・小田急多摩線については、相模原市と連携して誘致に向けて動いている。リニア新幹線については、当初の計画通りの工程で、小野路町の方は市の土地に立坑をつくる工事や掘削がはじまっている。小山田地区の方は、まだ工事ははじまってなく準備している。

(委員)

- ・鶴見川については、本線の河川改修を行っている。改修範囲は、凶師大橋から最終的には新橋までとなる。いつ頃、どのようにできるか東京都河川局と調整して欲しい。

(事務局)

- ・調査して報告したい。

(委員)

- ・市の完成予定の計画はおかしい。リサイクル施設が2022年度に完成するため、市道忠生579号線の整備についても同年に完成予定であった。モノレールについては、忠生地区の市政懇談会で市長が10年で町田駅まで用地買収を終えると言っていた。また、議会の一般質問の場で14年で開通すると言っていたが、10年で買収し、14年で開通するのは夢物語でできるわけがない。小田急多摩線延伸についても2027年までに完成すると言っているが、小山田まちづくり構想をつくっただけである。そのため、上小山田町中心の新規の協議会を発足した。市道忠生630号線は10年前に完成する予定であったが、2021年度までずれている。また、市道忠生579号線については想定もつかない。すべて目標にしますではなく、実施しますと市長が2回言っていた。資料3の活性化計画の改定については、具体的な内容は発表されていない。地元の方は、インフラ整備等で地域の所得をあげることを考えており、農業で地域を活性化することは望んでいない。

(委員)

- ・地元の農家は、子供が結婚により外に出て行ってしまい、結婚できない子供が高齢となり残っているのが現状で、農業を続けることができない。モノレールの延伸や道路拡幅等、街づくりの会はインフラ整備を目的で設立した。また、地域の所得をあげることを前提にしないと地域は発展しない。

(委員)

- ・農政部門が街づくりを担当するのはおかしい。おかしな活性化計画に基づいたアクションプランでは、この地域では意味がない。

(委員)

- ・1985年に町田市に引っ越してきた。今年で71歳で先がない。断片的な話ばかりで意味がないので、5年で動く10年で動く等事務局が整理し、次世代にも引き継げるようにしてほしい。

(委員長)

- ・組織改正についての言及がなかったようなので、説明をしていただいた方がよろしいかと思えます。

(事務局)

- ・組織改正については昨年度2月の検討委員会で説明させていただいた。北部丘陵では、北部丘陵活性化計画や緑の基本計画でも、今ある自然の資源を資産として農と緑を活用しながら活性化し、なおかつ地域の生活と利便性が向上しないといけないところを基本に、農業の分野を進めながら組織を統合した。

(委員)

- ・担当部署と地域で情報共有が足りない。以前いらした有金副市長も1週間ごとに情報共有を行うべきと言っていた。検討委員会の資料についても、各委員にシートを見ておいて下さいと事前配布しておけば時間の短縮になるのでは。

(委員長)

- ・資料の事前配布も含めて、事務局で検討して欲しい。具体的な担い手の動きが見えるようなシートにして欲しい。

(事務局)

- ・事前配布も含めて、改善できるところは検討していきたい。

(委員)

- ・2005年～2006年にかけて鶴見川流域でアレチウリの駆除を1500万円で行った。水路整備を行ったためホタルが出てきた。学校でも植林を通じ教育を行っている。課題はホタルを盗みにくる人がいること。有償の事業も行っているが、運営は難しい。例えば、人件費が10万円に対して、売れた分の利益が300円とかである。町田市観光コンベンション協会と連携してバスを使用し観察会ができればよいと思っている。昨年までTOYOTAから数百万円補助金を受けていたが、6年の任期満了となり終了となってしまった。この事業では宣伝は行っていない。鶴見川源流保水の森については活動場所の規模を縮小しており、担当面積は当初と比べて半分以下となっている。運営上追加資金は必要。資金の元となる資源が北部丘陵にはある。例えば、クワの実(実がきれい)。ヤブカンゾウは花がきれいで葉は食用すると美味しい。また、野中谷戸奥の竹林を活用し竹の子を商品として扱いたい。小山田ハス田が公園になると聞いている。

観光拠点になるのでは。都道 155 号線の付近にも管理用の通路がほしい。また、鶴見川源流の管理場所も細かいところはわからない。どの人に相談すれば良いか今回知りたい。

(委員)

- ・北部丘陵地域は市街化調整区域が多く、市街化区域にある農地も生産緑地であるため開発ができない。このような状況で、いかに活用して地域を活性化していくか。是非、農業振興課の意見を聞きたい。また、農道が整備されていないため、農地を貸すにも道がない。公道に駐車するため、地元住民は迷惑している。道路整備を進めて欲しい。

(委員)

- ・市街化調整区域内の 1 間道路では、救急車両が通れない。20～30 年後には大善地区の住民は 2/3 がいなくなってしまう。住民がいる間に生活道路整備を行い、5～6m の幅員で整備して欲しい。道路整備を行えば北部丘陵を訪れる人も楽しめる。北部丘陵で農業振興すると言っているが、市街化区域農地は税金対策で畑としてしているところが多く、本気で農業を行っている人は多くないのではないか。調整区域内は傾斜地が多く、大型トラックが入る農地については 1% 位しかない。

(委員)

- ・市が所有している農地、山林はお荷物になっている。外部から担い手が来て、対価を支払えるシステムにすると良い。明治大学へ視察に行ったことがあり、竹林を切って竹炭や粉末にして売ったりして生計をたてている NPO 団体を見た。八王子市では、畑は 30 坪を 5000 円で貸し出して利益を得ている。町田市でも利益を生み出すシステムを早く確立する必要がある。

(委員)

- ・土地の境界を決めないと何も始まらない。都や国から補助金を出してもらいなりしないといけない。そもそも市が UR から用地を買ったのがいけなかった。管理費として何百億円かもらうべきであった。

(委員)

- ・どの委員の意見も正しい。市民からの要望に市が対応できないので、市民自ら動かなければならない。その一つとして、まちだ〇ごと大作戦がある。里山交流館にも数万人が訪れるようになった。この人達を継続して訪れてもらうことと、市の中でも北部丘陵地域を貴重な緑の資源として存在感を高めるべきである。まちだ〇ごと大作戦ではスタンプラリーをやってみたいと思う。各 NPO 法人にも今の体制ではお金が入らない。里山交流館では 17 件の農家が野菜を販売しており、農産物の販売も増えている。新鮮、良いもの、安いものであればリピーターは出てくる。市内で行き来できる体制ができていない。来訪客の半分はリピーターである。奈良ばい谷戸も四季があるので飽きない。そのリピーターのためにも、良いルートが必要。それが、まちだ〇ごと大作戦の散策 de 通行手形である。9 月末に企画書を提出する予定。お金の入る方法を考えている。ポイントに名産を置き、地元にお金が入るシステムができればと思っている。自分達でやることと、次世代につなげるために若い人が必要。交流館を起点に小山田緑地、結の里を通るルートを考えている。NPO 法人みどりのゆびや、町田市観光コンベンション協会とも連携したい。

(委員長)

- ・新しく委員になられた委員の意見をいただきたい。

(委員)

- ・URから買った土地はどれくらいでどの辺のところか知りたい。

(委員)

- ・270haの内90haを買った。
- ・造成費用がかかり収益がでないため土地区画整理を2003年に中止した。
- ・アクションプラン15事業は多すぎる。市が絞って議論すべきでは。

(委員)

- ・アクションプランの予算はどれくらいもっているか。

(事務局)

- ・具体的に事業でいくらとは決まっていない。年度毎に要求して予算をとっている。

(委員)

- ・15項目ある事業の中で、2,3の事業に絞って予算を要求した方がいい。アクションプランについても絞り込んだ方がいい。総論ばかりでは話は進まない。

(委員)

- ・ドリームミーティングについても成果は何もない。現実は何も活かされていない。

(委員)

- ・アクションを起こしてやらないといけない。いつに何ができるか具体的なものを上げて欲しい。

(委員)

- ・目標が間違っているため意味がない。がんになっている農地を変えないといけない。違反農地も指導できない。市が農地法第3条で農地を取得しているのはおかしい。

(委員)

- ・将来的な予算の裏付けが必要。できることは1~2つで、何とか長期的なプランを作って、市民の盛り上がりも必要である。資料についても、イベントの申込率で73%と記載しているが実際は異なり、田植え体験も2組しかこなかった。大谷里山農園やおおるりファームのイベントは人が来ている。都心から何千円か払ってイベントに参加している。この差は、何かアイデアが必要である。

(委員)

- ・小野路と小山田では状況が異なり、別に考えないといけない。一括で話してもしょうがない。

(委員)

- ・広報して魅力を発するのが仕事。地域からも好かれるようになる。町田市観光コンベンション協会のイベントの参加者もリピーターが多い。希有な地域であるので、PRは担当者の役割である。反面、外から人を入れることが良いのかどうか考える必要がある。町田の自然が破壊されるのは勿体ない。

(副委員長)

- ・基本的な検討委員会の回数と資料の構成にも問題がある。全体像を示したり関係性を見せながらが良い。また、農業振興課が全てやるのは無理がある。タスクフォース等が良いのではないか。

(事務局)

- ・ご意見ありがとうございました。少しずつ頑張っていきたい。検討委員会の進め方や資料の作

り方についてはより良くしていきたい。活性化計画見直しは 2021 年度以降。市の他の計画に合わせるようにしている。

(委員)

- ・小野路と小山田で土地利用も異なる。会議も不要では。

(委員長)

- ・PDCA については、チェックはアクションにつながらないと意味がない。予算の話は本質であり、アクションとお金の話は一体でとらえることが必要。顔が見えないシートも問題。現場の動きをリサーチすることが必要。この場を大事にしていく必要がある。次回の改定にも反映させる必要がある。組織のあり方については、良く議論して欲しい。